

|| 企業調査レポート ||

富士ダイス

6167 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 1 月 17 日 (水)

執筆：客員アナリスト

岡本 弘

FISCO Ltd. Analyst **Hiroshi Okamoto**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
■ 会社概要	02
1. 会社沿革並びに事業概要	02
2. 事業内容	02
■ 業績動向	03
1. 2018年3月期第1四半期の業績概要	03
2. 2018年3月期上期の業績動向	03
3. 自動車を中心とした輸送用機械、電機・電子部品、金型・工具向け素材供給が好調	04
4. 財務状況と経営指標は健全性高い	05
■ 今後の見通し	06
1. 2018年3月期の業績見通し	06
2. 事業の動向について	06
■ 中長期の成長戦略	08
1. 業務効率化	08
2. 成長分野への注力	08
3. 海外売上高の拡大	09
■ 株主還元策	09

■ 要約

超精密加工技術を背景に事業領域広げ新たな成長を目指す

富士ダイス<6167>は、1949年に創業し、超硬耐摩耗工具業界では長期にわたりトップシェアを堅持、現在のシェアは31.4%を誇る。また創業以来黒字経営を継続しており、71.9%と高い自己資本比率を誇り、収益率も高い。

2018年3月期第1四半期は売上高4,251百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益371百万円(同111.2%増)、経常利益366百万円(同115.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益267百万円(同205.3%増)と伸長した。自動車業界向け超硬製工具、金型の好調に加え、混練工具などが好調で、増収効果に加え限界利益率の高さから稼働率アップにより大幅増益を達成した。

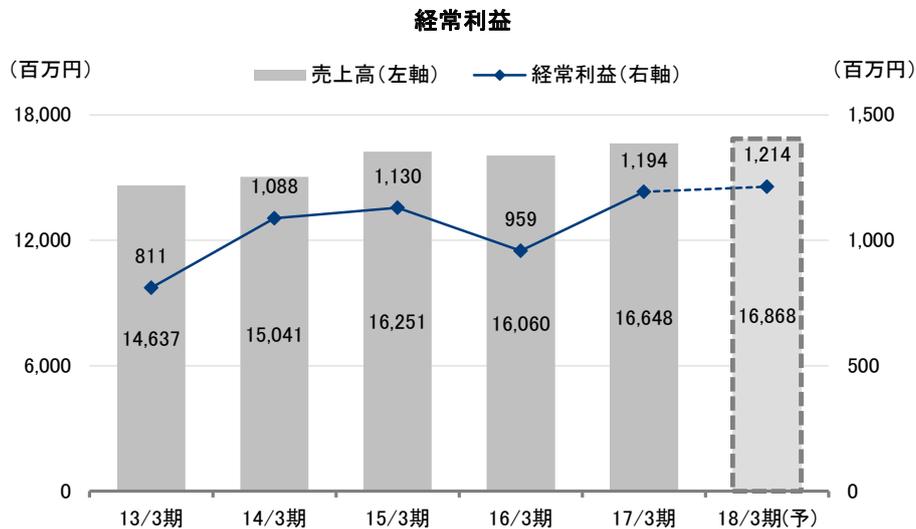
2018年3月期上期は売上高8,803百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益787百万円(同31.7%増)、経常利益788百万円(同37.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益577百万円(同45.0%増)と期初計画を売上高で394百万円、営業利益267百万円超過達成で着地した。自動車業界向けの好調持続に加え、スマートフォン部品製造向けなどが増加、為替も円安となり、順調な収益拡大となった。

2018年3月期通期の連結業績は、売上高で前期比1.3%増の16,868百万円、営業利益で同4.4%減の1,110百万円、経常利益で同1.6%増の1,214百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同5.2%増の900百万円と増収経常増益の見通し。熊本製造所の稼働に伴う減価償却費増や修繕費などの増加を見込み、営業利益段階で減益を予想する。ただし、上期増額分を考慮すると下期は期初計画比減額修正となるが、現状は自動車業界向けが好調で、半導体産業などの生産拡大が続いているなかで、会社予想を上回る収益が見込まれる。また新製品の開発も順調に進んでおり、新たな成長の種も豊富に持っており、今後の企業成長に向け、明るい展望が期待される。

Key Points

- ・2018年3月期上期は前年同期比7.4%増収、31.7%営業増益と期初計画を大幅増額で着地
- ・2018年3月期会社予想は1.3%増収1.6%経常増益予想と期初計画を変更せず、大幅増額の可能性
- ・成長分野へ注力し新製品群も寄与し増収増益続く見通し

要約



出所：ホームページよりフィスコ作成

■ 会社概要

超合金製工具・金型（耐摩耗工具）製造の専門メーカー

1. 会社沿革並びに事業概要

同社は超合金を用いた高精度の耐摩耗工具・金型の製造販売を主たる事業として展開し、国内超硬耐摩耗工具専門として長期にわたりトップシェアを堅持してきた。2015年6月に東京証券取引所市場第2部に上場、2017年4月には第1部指定銘柄になっている。

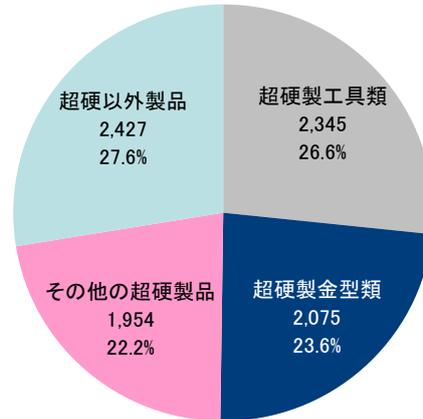
同社の大きな特徴は、粉末冶金技術を用いて、原料粉末の粉碎・混合・造粒から、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制により、受注生産直販体制を敷いている点にある。様々なオーダーに対応できる多品種少量生産に強みを持ち、高付加価値製品の販売で収益性を確保、素材売りが多い同業他社との差別化ができています。

2. 事業内容

主要取扱製品は4つに分類され、2018年3月期上期における売上構成は、超硬製工具類 26.6%、超硬製金型類 23.6%、その他の超硬製品 22.2%、超硬以外 27.6% となっている。

会社概要

18/3期上期売上高構成(百万円、%)



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

業績動向

2018年3月期上期は前年同期比7.4%増収、31.7%営業増益

1. 2018年3月期第1四半期の業績概要

2018年3月期第1四半期は売上高4,251百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益371百万円(同111.2%増)、経常利益366百万円(同115.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益267百万円(同205.3%増)と伸長した。自動車業界向け超硬製工具、金型の好調に加え、混練工具などが好調で、増収効果に加え限界利益率の高さから稼働率アップにより大幅増益を達成した。

2. 2018年3月期上期の業績動向

2018年3月期上期は売上高8,803百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益787百万円(同31.7%増)、経常利益788百万円(同37.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益577百万円(同45.0%増)と期初計画を売上高で394百万円、営業利益267百万円超過達成で着地した。自動車業界向けの好調持続に加え、スマートフォン部品製造向けなどが増加、為替も円安となり、順調な収益拡大となった。

業績動向

2018年3月期上期業績

(単位：百万円)

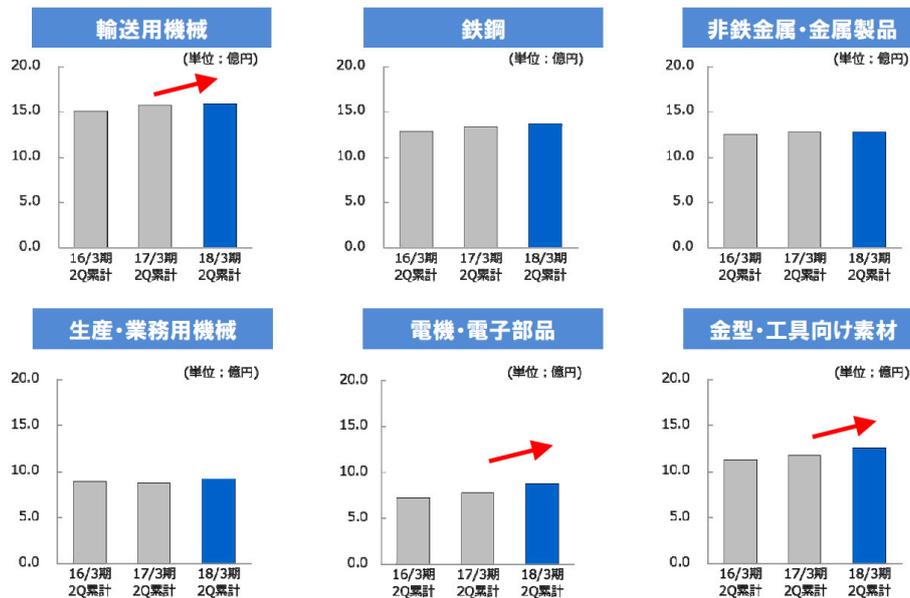
	16/3期		17/3期			18/3期上期		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前期比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	16,060	100.0%	16,648	100.0%	3.7%	8,803	100.0%	7.4%
売上原価	12,118	75.5%	12,429	74.7%	2.6%	6,461	73.4%	5.6%
販管費	2,978	18.5%	3,056	18.4%	2.6%	1,554	17.7%	5.4%
営業利益	963	6.0%	1,161	7.0%	20.6%	787	8.9%	31.7%
経常利益	959	6.0%	1,194	7.2%	24.5%	788	9.0%	37.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	732	4.6%	855	5.1%	16.8%	577	6.6%	45.0%

出所：決算短信よりフィスコ作成

3. 自動車を中心とした輸送用機械、電機・電子部品、金型・工具向け素材供給が好調

製品別売上高動向では、超硬製工具類が冷間フォーミングロールや、半導体封止材向け混錬工具の販売が好調で前年同期比 8.7% 増と好調に推移。超硬製金型類は自動車部品生産用金型が堅調だったものの、製缶工具が特需一巡で減少、1.6% 減にとどまった。その他の超硬製品はスマートフォン部品製造用や粉末成型金型用、精密プレス金型用の超硬合金チップが堅調に推移し 9.7% 増、超硬以外製品では引抜鋼管が好調を持続、自動車関連セラミックス部品加工向けも増加し 13.2% 増となった。なお、全体として構成比に大きな変動は見受けられない。

顧客産業分類別状況 (単体ベース、売上高)



出所：決算説明資料より掲載

業績動向

4. 財務状況と経営指標は健全性高い

同社は創業以来現在に至るまで黒字経営を継続、高い自己資本比率を維持している。手元資金も潤沢であり、ネットキャッシュ残高は高位に推移、フリーキャッシュフローもプラスで推移している。

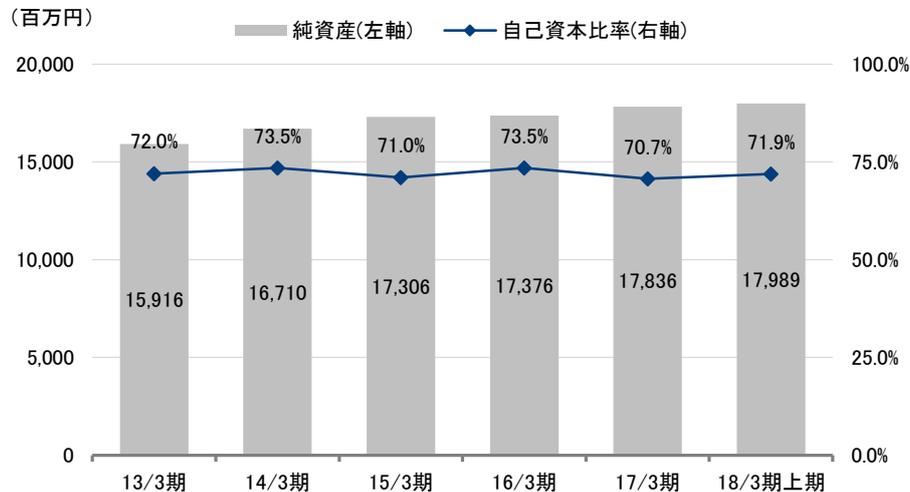
連結貸借対照表及び主要な経営指標

(単位：百万円)

	16/3 期末	17/3 期末	18/3 期上期末	増減額
流動資産	13,995	14,056	13,885	-171
固定資産	9,638	11,188	11,117	-71
総資産	23,633	25,245	25,002	-243
流動負債	4,347	5,545	5,202	-343
固定負債	1,909	1,863	1,811	-52
負債合計	6,257	7,409	7,013	-396
純資産	17,376	17,836	17,989	153
(安全性)				
流動比率	321.9%	253.5%	266.9%	
自己資本比率	73.5%	70.7%	71.9%	

出所：決算短信よりフィスコ作成

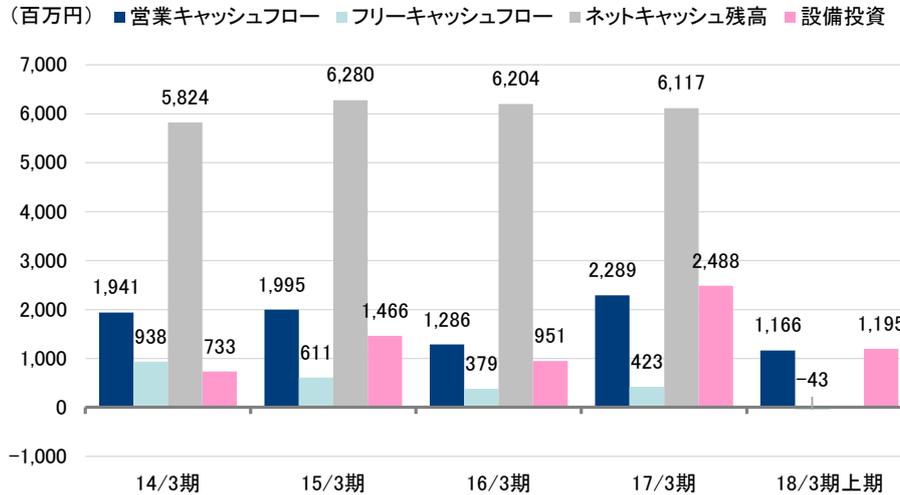
純資産・自己資本比率推移



出所：ホームページ、決算短信よりフィスコ作成

業績動向

営業CF残高・フリーCFと設備投資推移



出所：ホームページよりフィスコ作成

■ 今後の見通し

2018年3月期会社予想は1.3%増収、 1.6%経常増益予想ながら増額含み

1. 2018年3月期の業績見通し

2018年3月期通期の連結業績は、売上高で前期比1.3%増の16,868百万円、営業利益で同4.4%減の1,110百万円、経常利益で同1.6%増の1,214百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同5.2%増の900百万円と増収経常増益の見通しである。全体として増収を見込むものの、熊本製造所の稼働に伴う減価償却費増や修繕費などの増加が見込まれ、営業利益段階ではコスト増を補えず微減益を予想する。ただし、現状は自動車を中心とする輸送用機械向けが引き続き省エネ、安全対策などで高水準の投資が行われており、半導体産業も設備投資並びに増産が続いているなかで、会社予想を上回る売上、利益が見込まれる。

2. 事業の動向について

同社では2018年3月期の需要分野別の動向と同社の取り組みについて決算説明会で開示をしている。具体的な売上予想数字はないものの、輸送用機械、非鉄金属・金属製品、電機・電子部品分野で増収、その他を横ばいと想定し、全体として増収を目指す計画となっている。

今後の見通し

会社側は利益面では熊本製造所のフル稼働に伴う減価償却費増などを考慮し営業減益、経常微増益予想としている。しかし、輸送用機械向けが引き続き好調に推移する見通しに加え、半導体設備投資、半導体生産の活発さなどから電機・電子部品向け等も好調に推移する見通しから、会社利益予想は控え目な数字と判断される。

市場動向と会社の取り組み

需要分野	市場動向と会社の取り組み	前期動向	今期見込み
輸送用機械	環境対策車および次世代自動車向けの部品成形用金型を積極的に取り込んでおり、前期比増を見込む		
鉄鋼	国内高炉メーカー向け工具の更新が増加。新興国向けの需要は減少も前期比並みを予測		
非鉄金属・金属製品	当社主力製品のひとつである飲料缶の成形金型は微減、家電向け非鉄金属加工用工具の増加を見込み、前期比微増を予測		
生産・業務用機械	半導体製造装置向け部品や金属加工用装置向け金型、高圧関連工具が増加するも、光学機器用金型は減少、全体では前期比横ばいを予測		
電機・電子部品	磁石、電池向け金型は前期並みだが、半導体素材の成形工具の増加により全体では前期比微増を予測		
金型・工具向け素材	超硬素材はアジアを中心に、超硬以外の素材に関しては、特殊用途セラミックスを中心に国内での拡販を進め、全体では前期比並みを見込む		

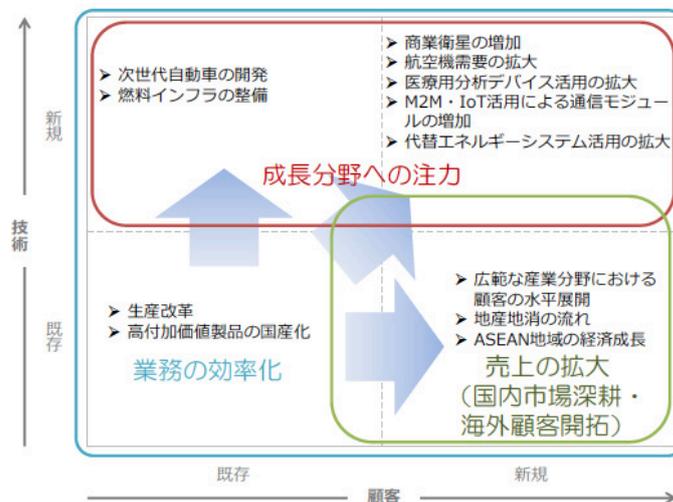
出所：決算説明資料より掲載

■ 中長期の成長戦略

持続的成長を目指し、業務効率化を進め国内市場の深耕、海外売上拡大を目指す

中長期的な成長に向けて

- 持続的成長を目指し、恒常的に業務の効率化を進め、国内市場の深耕、および経済成長が見込まれるアジア地域を中心とした海外売上への拡大を図るとともに、成長分野への研究 開発に注力していく



出所：決算説明資料より掲載

1. 業務効率化

同社はこれまで、顧客に対するきめ細かい受注・生産体制を実行するために、積極的に生産拠点づくりを実行してきたが、国内は物流網の発達による配送時間の短縮化、IT化による情報ネットワークの拡充などから、生産特性を考慮した製品、生産拠点の集約、再構築に着手した。具体的には熊本製造所に新工場を建設し複雑形状製品を中心に集約した。また郡山工場は単純丸物形状の製品を主力に、光学部品向け超精密加工品なども手掛ける工場、岡山工場は大型品中心に母材供給などを実行中である。同社は工場の製品集約化に加えIT化による情報一元化やロボット導入による自動化ラインの構築などで生産効率10%以上の改善を目指す。また国内営業拠点についても、16ヶ所から13ヶ所に集約、業務効率化を進めている。

2. 成長分野への注力

同社は成長分野への研究、開発に注力することで、高付加価値な製品売上の拡大を目指している。具体的には次世代自動車開発、航空・宇宙、医療・化粧品、環境・エネルギー、その他新素材開発などである。

中長期の成長戦略

会社側では成長分野の進捗状況を開示しているが、具体的にサンプル出荷を始めたものや、実際に販売を始めたものも多い。

成長分野の進捗状況

分野	概要	素材	優位性	進捗状況	販売時期(予定)		
					2017年	2018年	2019年
次世代自動車	①モーター用抜き金型	①超硬合金	①材料技術	①サンプル出荷	-----	-----	-----
	②車載電池用金型	②超硬合金	②加工技術	②販売中	-----	-----	-----
	③過給器用機械部品	③複合材料	③コスト低減	③サンプル出荷	-----	●-----	-----
航空・宇宙	①航空機エンジンタービン加工向け工具	①セラミックス	①特許取得	①販売中 (顧客体制構築)	-----	-----	-----
	②燃料ポンプ用摺動材	②複合材料	②環境対応	②性能評価中	-----	-----	-----
医療・化粧品	①分析マイクロチップ用金型(μ-流路)	①超硬合金	①加工技術	①サンプル出荷	-----	-----	-----
	②ドラッグデリバリーシステム用金型	②複合材料	②加工技術	②性能評価中	-----	-----	-----
環境・エネルギー	①半導体向け高熱伝導用素材	①複合材料	①特許取得	①サンプル出荷	-----	-----	-----
	②高圧合成法を用いた触媒	②新物質	②特許取得	②サンプル準備中	-----	-----	-----
その他	①赤外線レンズ用金型	①複合材料	①特許出願	①性能評価中	-----	-----	-----
	②高圧発生装置用素材	②超硬合金	②特許取得	②販売中	-----	-----	-----
	③スマートフォン向けガラス成型加工工具用素材	③セラミックス	③特許取得	③販売中 (顧客体制構築)	-----	-----	-----

出所：決算説明資料より掲載

3. 海外売上高の拡大

同社はこれまで、多品種少量生産、受注生産直販システムを売り物として、国内での確固たる顧客基盤のもとで成長を享受してきたが、今後の成長のためにグローバル展開も実行してきた。過去3期間は伸び悩んでいたが、18/3期上期は前年同期比15.2%増の1,402百万円と2ケタ増となった。その背景には低迷していたタイが回復、中国向けが力強い動きとなったことが大きく、海外売上高比率も15.9%と1.2ポイント向上した。なお、同社が得意としている超精密、耐摩耗性能を必要とする顧客は国内への発注で実際は海外で利用されている事例も多く、実質的な海外売上比率は30%に近づきつつあるものとみられる。

株主還元策

連結配当性向50%をめどに適切な利益配分を実施しており 今後増配含む

同社は株主還元策として配当を実施している。配当の基本方針としては、連結配当性向50%を目処に適切な利益配分を実施している。2018年3月期の1株当たり配当金は22円と、会社予想EPS45.00円に対して48.9%と、ほぼ配当性向50%に近い水準を予定しているが、今後利益の上方修正も見込まれ、これに応じた増配が期待される。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ